

# 明治期の「多門院村全図」と地名

京都府立大学文学部歴史学科 3 回生 疋田彩花

## はじめに

「多門院村全図」は明治前期に描かれ、現在も多門院で保管されている（図 1）。本稿ではまず資料の概要、描写内容を分析し、次に地名「大人の足跡」について考察する。

### 1 「多門院村全図」の概要

本絵図は無年記であるが、絵図の左上に「丹後国加佐郡第六組多門院村全図」とあり（図 2）、六組と書かれていたため他文書と照合した結果、明治 12 年から 14 年と推定した。絵図の裏書には「此図面ニ記入ノ番号ハ後ニ改正シ乙ノ図ニ記載アル番号不突合ナリ」と書かれている（図 3）。絵図の内容としては字、番地、所有者名、例えば「字大井川 第百二番 新谷仁左衛門」などと記される。凡例記号は「道人々持主界 川 野山 桐実山 山林 耕地 字境 県境 国境 他村境」の 10 種類である（図 4）。また村境記号や方位記号 3 か所も確認できた。絵図上に記された字（地名）は表 1 の通りである。

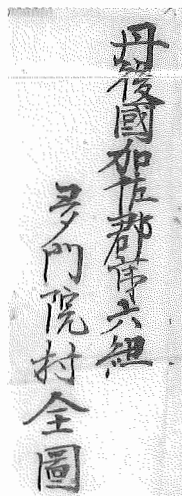


図 2 表題

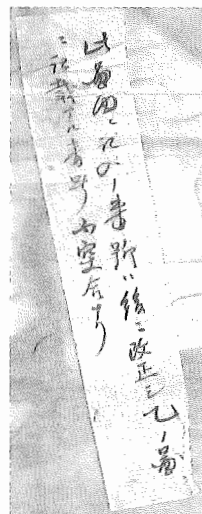


図 3 裏書

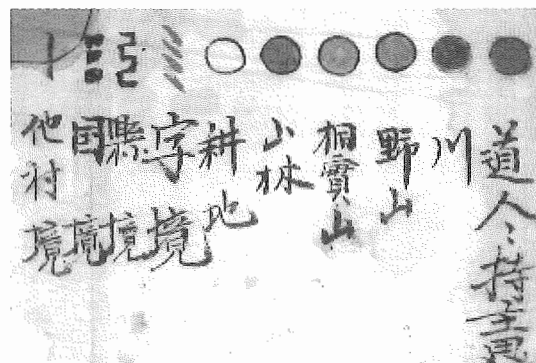


図 4 凡例

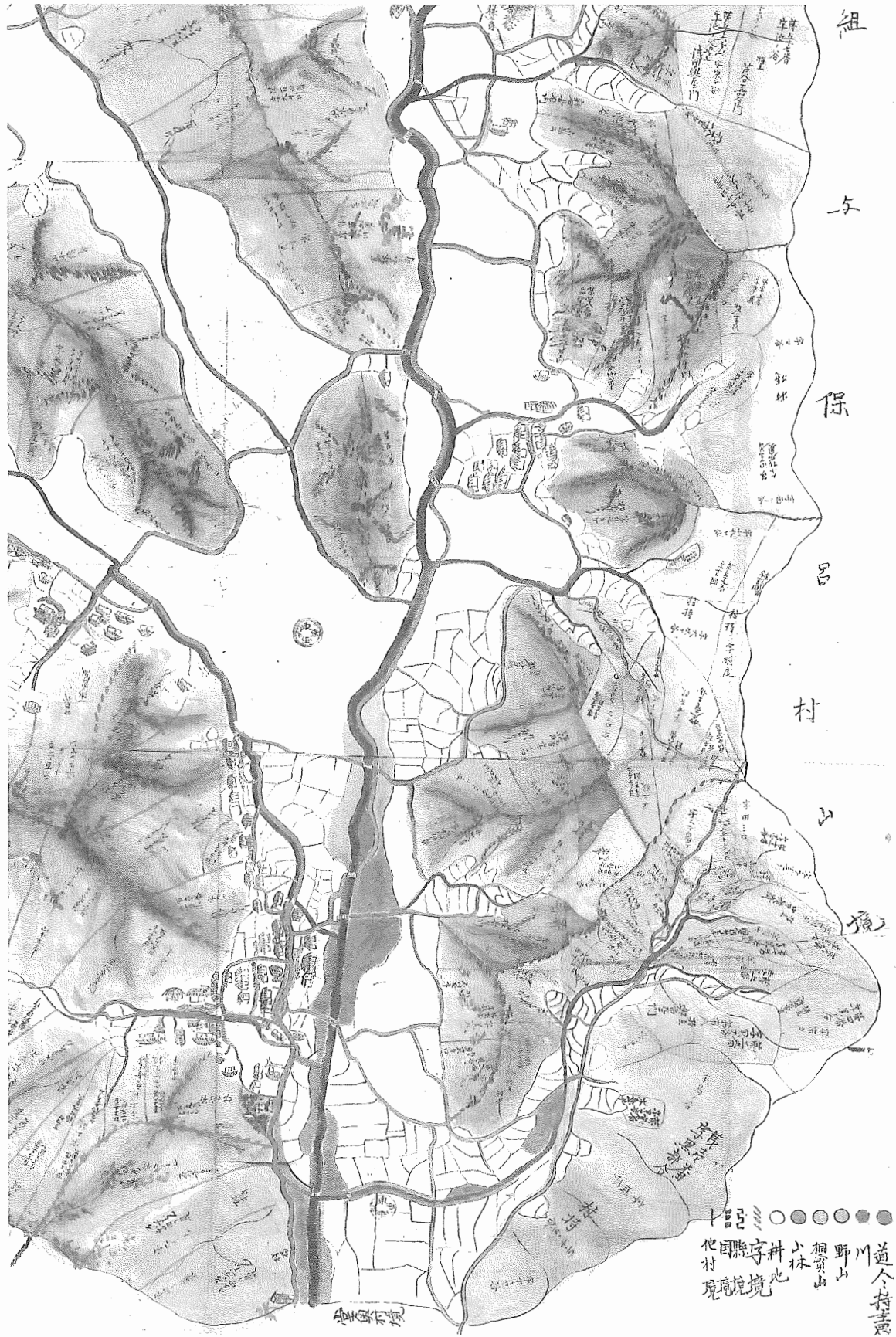


图1 「多門院全圖（部分）」

## 2 絵図の描写内容

絵図には先述したように字、番地、所有者名が記されているが、それ以外にその当時の様子が詳しくわかる様々なものが描かれていた。ここでは家や石垣など描写対象を紹介していく。

### 2-1 家と石垣の描き方 (図5)

絵図中には家が数多く描かれている。屋根に注目すると茅葺と板葺（または瓦葺）の区別が存在しており、また倉がある家も描かれ、屋根下には○印が描かれる。絵図左下にある荒倉の西側には、「ニイレ」という地名があり、現在の八幡神社と思われる建物が木に囲まれている。石垣についても、絵図上のいくつかの場所を確認できる。石垣は道に沿って組まれており、所々途切れている。

表1 絵図の字

赤迫	大井川	神山	コモイケ	千谷	栃木谷	バトコ	マ谷
芦谷	大口	キヨランボ	コヤノモリ	高今	中バナ	ハマ谷	松尾
芦谷口	大野	黒部谷	小山	高尾	ナカリ	番ホトコロ	守奥
穴ケ谷	大松尾	黒丸	坂尻	滝谷	ナシキ迫	東ケ谷	水呑
庵谷	大水ケ谷	黒丸裏	サキ段	瀧ノ元	ナ、セ谷	東山	南山
家奥	大道	黒ミ	桜谷	田シロ	ニイレ	ヒシヤ段	向ハナ
池ノ谷	オソノ口	小芦谷	サブ峠	タマガダイラ	西ケ谷	ヒシヤ門	矢ケ谷
市戸	オソノク平	小西	地藏	多門奥	野田	ヒメガ迫	ヤナキ谷
上段	オツキデラ	胡摩	シヨツガサ口	月ノコ	橋本林	平尾	由り鼻
梅ケ谷	大人ノ足跡	胡摩段	杉谷	土段	ハタガノ谷	平迫	横尾
オウミチシバ	カゴサカ	小松尾	スキ鼻ケ	ト	伐木	船ケ谷	吉国
大芦谷	梶ケ谷	小水谷	セト	峠	伐木奥	ホウノキ谷	ロクロ谷

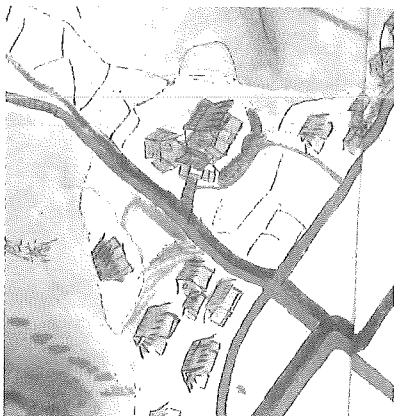


図5 家と石垣

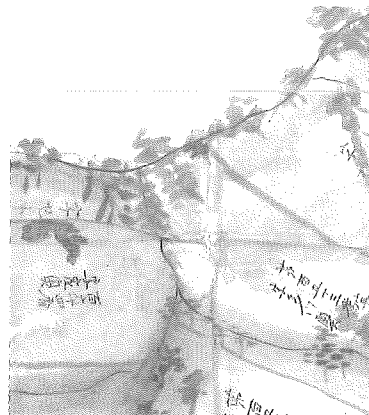


図6 山の尾根

## 2-2 現在の集落と興禅寺周辺地域

絵図の集落位置と現在の集落位置は変わっておらず、川沿いに家が集まっていることがわかる。川と家が非常に近いため、過去には台風による川の氾濫で被害を受けている。昭和28年(1953)9月25日に台風13号によって山津波が発生した。現在の地図と「多門院村全図」を比べると、現在の川は直線になっており、台風13号の復旧工事による直線化と考えられる。

興禅寺は絵図北西部の山の麓に位置する(図5)。倉や石垣、山門が一緒に描かれ、また現在と同じ位置に毘沙門堂も確認できる。

## 2-3 山の尾根、野山

山は緑色で描かれているが、山の尾根は特に濃い緑で描かれている。また木も簡易に描写され、葉部分は筆を押し付けたもので表現され、幹部分は茶色で線を引いただけである(図6)。何か所もある野山の所有者は全て村であり、同時期の山論の対象となった入会山である(東昇論考「明治前期多門院・溝尻の山論と裁判」参照)。

## 3 特徴的な地名「大人ノ足跡」

最後に絵図に書かれた地名に焦点をあてる。表1の多門院の地名なかでも「大人ノ足跡」は非常に特徴的である。これは地図中央より右側にある尾根に記されており、足跡の形にも見える(図7)。「大人ノ足跡」の読み方は定かではないが、巨人伝承に関係があると考えられる。日本には様々な土地に伝承がある巨人の妖怪「ダイダラボッチ」が存在すると考えられていた。ダイダラボッチは、山や湖ができた要因として語られ、以下に紹介した話が各地に伝承されている。



図7 「大人ノ足跡」

＊和歌山県田辺市

奇絶峡（和歌山県田辺市）にある大人（おおびと）の足跡は、むかし大人が高尾山に腰を掛けて田辺湾で足を洗うとき、片足をこの岩にかけて踏んばり足跡を残したと伝えられるものである。

＊広島県大竹市

大人原という地に大人（おおひと）の足跡と伝えられる畑がある。この畑は右足を踏み込んだような形があり、大きさはおよそ1尺4寸（約42.4cm）である。左足の足跡は鳴川にあり天狗の仕業と言われている。

＊福岡県広川町

広川町では巨人が歩いたとされる足跡が久泉村と太原村に残っている。久泉村は「足形」と呼び、太原村は「大人（ううひと）の足跡」と呼んでいる。

＊鹿児島県阿久根市

八幡神社前にある石には60cmほどのくぼみがあり、「天狗の足跡、大人の足跡（おとなのあしあと）」と呼ばれている。伝説にはこの地方に住んでいた天狗がつけた足跡だと伝えられている。

このように全国各地に巨人にまつわる話があり、多門院村でもおそらく巨人にまつわる伝承があり、この地名がつけられた可能性がある。上記にあげた話はどれも大きなくぼみがまるで巨人の足跡にみえるということから、巨人伝承と結びつけたものといえる。

## おわりに

今回「多門院村全図」の内容と地名について分析した。「多門院村全図」を読み解き現在との共通点や相違点を考察することによって当時の様子を探ることができ、また地名に着目することで多門院村と他地域の違いを発見することができた。多門院地区での報告会では、「多門院村全図」に興味をもってもらえたことが非常に嬉しく、また報告会后、地元の人々が「多門院村全図」を囲み話し合われていたことが印象的であった。

### 参考文献

舞鶴市史編さん委員会『舞鶴市史』現代編、舞鶴市、1988年

み熊野ネット「大人の足跡」

<http://www.mikumano.net/setsukan/obitono.html>（最終閲覧 2017/11/19）

大竹市歴史研究会「大人の足跡」

<http://otake-history.halfmoon.jp/oldtale/>（最終閲覧 2017/11/19）

福岡県広川町「足形堀と大人（ううひと）の足跡」

[http://www.town.hirokawa.fukuoka.jp/departmentTop/node\\_937/node\\_956/syougai/node\\_6855](http://www.town.hirokawa.fukuoka.jp/departmentTop/node_937/node_956/syougai/node_6855)（最終閲覧 2017/11/19）

やさしい鹿児島スィスイなび「天狗の足跡（大人の足跡）」

<http://www.pref.kagoshima.jp/suisui/pc/area/kitasatuma/18074/>（最終閲覧 2017/11/19）

## 表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 丹後風土記残欠倉部山 = 高梯郷の中心地  
(舞鶴市多門院字梯木林) 新谷一幸氏撮影
- 2 大宮売神社旧本殿の調査風景 近藤史昭氏撮影
- 3 稲の虫送り (舞鶴市多門院) 新谷一幸氏撮影
- 4 舞鶴湾口から青葉山など東地域の山 松岡秀雄氏撮影
- 5 京丹後市大宮売神社の境内 菱田哲郎氏撮影

## 京都府立大学文化遺産叢書 (2008 ~)

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報  
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽地域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山城の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究



### 京都府立大学文化遺産叢書 第14集 舞鶴・京丹後地域の文化遺産

編集 東 昇・菱田 哲郎  
発行 京都府立大学文学部歴史学科  
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5  
発行日 2018年3月30日  
印刷 サンケイデザイン株式会社  
〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 14 番地 2